

麦の穂

題字: かまたみさ

第52号

2015年1月
特定非営利活動法人

麦の会

TEL&FAX

022-299-1279

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町 17-1

郵便振替口座 02200-8-46178

E-mail: muginokai@k5.dion.ne.jp

http://www.muginokai-koppe.com

目次	亮師君さようなら	飯嶋 茂	・・・1p
	あっくん	阿部 央希	・・・3p
	10年前の亮師君ボランティア募集のチラシ		・・・4p
	「はたらく」研修 in 東北盛岡	北村 慎一	・・・5p
	共同連・東北ブロック結成しました	飯嶋 茂	・・・8p

亮師くん、さようなら

飯嶋 茂

高橋亮師くんが亡くなった。昨年12月27日のことだった。40歳だった。前の週末までは元気だった。水曜日にかぜをひいたということでコッペを休んだが、まさかこんなことになるとは、思いもしなかった。

12月27日の土曜日はコッペの大掃除の日だった。亮師くんのおかあさんから具合が悪く病院にいるという電話が入り、すぐ病院に向かった。腸捻転ということだったので、入院程度に思いながら、病院についた。しかしその時には、すでに危篤状態になっていた。手術をしようとした時にはすでに心配停止状態だったという。その日東京に行っていたお父さんが病院に来るのを待つようにして、その日の夕方、息を引き取った。

年末のあわただしいときにもかかわらず、亮師くんのお別れ会には大勢の人が集まってくれた。コッペのメンバーもそれぞれの言葉で亮師くんにお別れを告げてくれた。

休み明けのコッペはいつものように仕事を始めている。しかし、亮師くんのいつ

もの入り口付近の定位置は空白のままだ。



(央希君と良康君と)

亮師くんとは長い付き合いになったが、私が本当の意味で付き合いようになったのはコッペで亮師くんが働くようになってからだろう。それはくしくも私がコッペの中で働くようになった時期と重なる。

亮師くんは障害の程度ということでは重く、パン・クッキーを作ることは難しい。コッペは共に働くということ掲げているが、亮師くんどうやって共に働いていくかは、その時は正直イメージがわかなかった。

最初は、週に1回配達に行くことから始まった。亮師くんは車が好きだからね。それがうまくいくようになると週2回配達に行くようになった。配達には他のコッペのメンバーも一緒にいく。そう亮師くんはみんなというのも好きなのだ。

配達に行きコッペの営業の顔となった亮師くんの、コッペに寄せる熱意に押されるように、配達のない日にもコッペで働くようになった。みんなと同じように白衣を着て、決められた時間をみんなと一緒に作業場で過ごした。さきののべたように作業はできないが、みんなの「監督」業である。時にはみんなの話し声に反応し、時には寝てたり、時には外の車をみっていたり・・・。



(2010年共同連宮城大会交流会にて
仮装して踊る亮師くん)

そう、みんなと同じ場、同じ時間を共有していたのだ。

その姿で、共に働くということのコッペなりのあり方を亮師くんは体現してくれていたのだ。さようなら、亮師くん。ありがとう、亮師くん。亮師くんの姿を道しるべに、これからもコッペの歩みを進めていくな。

あゝ君

天国に行ったでもいつまでも

あゝ君は笑顔でニコにしてよかったですよ返事もしてくれました。

かなしい涙は一番の涙をながすのは
コッパや家族もさみしくなる事です。

阿部と言。本当から思っています。

アッ君事守られる事はきちんと

あつます。云々のアッ君は、いい男だよ

ず、とあたたかく大事なアッ君事

これからコッパの皆がいるから、アッ君事

天国から見ていますのであつしとして

あなたにアッ君事守られが、たごめんね

さみしい空は星になったアッ君は、わがごとく

見てゐるんだ人生は、つらい時は

泣くがさみしくなるのは人生の涙は

さみしい～かなしい人生の涙あり

阿部史希

ぼくと一緒に歩いてください

ボランティア
急募

あきのり
高橋 亮師
もうすぐ 30才(男)
4月生まれ

懐かしい、10年前のチラシです

毎週火曜日 午前中、自宅(青葉区あけぼの町)から
パン・クッキーの店  (宮城野区東仙台)へ通い、パン
クッキーの配達の仕事をしています。ゆくり一緒に通勤
のお手伝いをしてくださる方(できれば男性)を探しています。



ジャニーズ系 大好き
愛読書は「ガテレビジョン」「TVガイド」
(表紙はもちろん ジャニーズさ!)
返事は お得意「あきのりさん」
は〜い

ボロボロになるまで読みつくす!!
大大大好き(助手席から)
なお直し

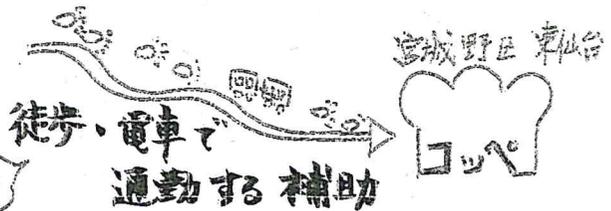
〜ぼくとまず会ってください〜

ボランティア内容

毎週 火曜 AM 10頃 ~ PM 12頃
(車なら AM 11:30 ~)



自宅 青葉区あけぼの町
(荒巻セントラルプラザ近く)



連絡先 パン・クッキーの店 コッパ (022) 249-1279 (FAX兼)

昨年、12月12日・13日に岩手で行われた、「きょうされん安居楽業ゼミナールはたらく」へ参加しました。その時のお会いしたのが、金沢のサンサンクラブ「かがやき」の北村さんです。せっかく来たのでと研修だけではなく、宮城・福島各地を回っていかれました。研修後、私の車で盛岡から仙台までご一緒しました。やる気あふれる北村さんに会えたことは今回の研修で一番心に残ったことでした。

北村さんが、サンサンクラブ「かがやき」に出された研修のまとめを転載させていただきます。

飯嶋

「はたらく」研修 in 東北盛岡 研修のまとめ

金沢 サンサンクラブ「かがやき」 北村 慎一

※ はじめに

今回2日間の研修であったが、東北に行ける機会はないので被災地の作業所(南相馬、南三陸)もあわせて見学に行かせていただいた。理論と実践を往復でき、自分のしごと観を深めるよい参考になった。そこでは、被災地の作業所だからこそ気づかせてくれることがあった。一つは、震災によって突然しごとが丸ごと無くなってしまった時、何が起こるか。もう一つは、ささやかな日常のひとコマひとコマを奪われることによって改めて気づかされるかけがえのなさ・尊さ・有難さであった。この2点を自覚的にして、日々の実践に姿勢として反映できたなら日々がよりきらめいてくると感じた。

I、 羅針盤・根本的な視点として「Decent Work」

研修で松井先生の講義。魅力あふれる内容だった。詳しくは、各論のまとめに記してあるが、この概念は世界中の議論がありその上で法律(条約、制度)として成立した。その意味で、歴史的な知恵・遺産でありそこに学ぶことの重要性を感じた。ここで得られる具体的な視点は、実践の中で理論と往復し実践に活かしていけないと絵に描いた餅になってしまう。そうならないように、本当の勝負はいかに実践的な知恵に転化できるかだと感じた。

松井先生は、「ノーマリゼーションの原理」を提唱したニリエ・北欧の先進的事例を研究されているくるべ法子さんを紹介下さった。ぜひ、学習してみたい。

II、 被災地だからこそ学ぶこと

南相馬、南三陸では、地域が丸ごと災害に見舞われ、しごとが根こそぎなくなってしまう。そこで、しごとを奪われた仲間が「ぬけがらのようになっていた」との一言が印象に

残っている。「Decent Work」の視点で捉えるならしごとは、生活リズムを整え、心地よい疲労感をもたらし、社会に貢献することで充実感や達成感、自己肯定感を育む、貢献のため専念すること生きることの密度を高めるなど単に収入の確保に留まらない大切な効力があることに気づかされる。普段、当たり前のように取り組む作業であるが、上のことに自覚的になれば、自分たちと仲間のしごとをより充実した「Decent Work」へとつなげられると感じた。

Ⅲ、「Decent Work」の軸・核をもって多様なしごとの選択肢から何を選ぶか問われている

研修での実践報告と現地の見学では、それぞれ違った角度のしごとがなされていた。ここで重要なことは、何のために、何をしごとに据えるのかが明確であることであり、以下に記すいくつかの事例は見た目は大きく違うが「Decent Work」という核になる視点からみると共通点も多い。重要なのは、「Decent Work」の羅針盤(理論)と実践との往復による実践の発展と仲間や地域の実態に柔軟に対応した結果としてのオリジナルなしごと起こしであると感じた。

たとえば、「こころん」の精神の仲間を前提とした実践(6次産業化、地産地消、有機野菜、しごとのみでないトータルな支援)、知的の仲間と「すずしろ蔵王」の豆腐(6次産業化と大量生産、品質へのこだわり、難しいしごととやりがい、達成感、地域性、企業と提携、主要観光おみやげを担うこと)、「南相馬ファクトリー」・「めぐみ福祉作業所」・「にんじん舎」のメッセージ性のある缶バッチ・モアイはがき・復活のソーセージなど多様である。

見た目は多様であるが、「Decent Work」の羅針盤をもって、仲間と地域の実態に柔軟に应变している点は共通している。またもう一つ共通している点は、商品開発におけるオリジナル・ニッチの掘り下げがなされている点であった。こころんでは、いのちと環境に優しい安心安全な野菜づくり。すずしろ蔵王では、こだわりの国産豆腐。南相馬ファクトリー・めぐみ福祉作業所・にんじん舎では、想いを伝えコミュニケーションのきっかけとなる缶バッチ・“オモイをカタチに葉書”・復活のソーセージ。にんじん舎のすごいのは、原発被害という逆境でもその地で生き抜くために、被災地だからこそ発信できる“循環の上のいのちとしての食”を現実化している点である。

どの事例もオリジナリティがあり、味わいがあり、簡単にはまねのできないものである。また、福祉だからこそできる側面(ストレングス・強み)を最大限に活用しようとしている点にも学びたい。こうしてできた製品は、質が高く、高い単価(付加価値)に反映する。

もう一つの重要な観点として「製品がもつ社会性」である。どれも、社会に対してなんらかのメッセージを備えている。例えば、のぞみ福祉作業所・南相馬ファクトリー・にんじ

ん舎では、被災に関するメッセージ、すずしろ蔵王とこころんでは環境といのちにやさしい食である。

藤井さんが荒彫塾の初めての学習会で「山の業と里の業」という話をしてくださったのを思い出す。ここ被災地での「山の業」をいかにして「里の業」に反映させ、里の業をよりなかまとともに輝いた日々を紡げるか。ここからが、本当の真価が問われる。

IV、「山の業(被災地での研修・見学)」から「里の業(サンサンクラブでの実践)」へ

私の事業所(里の業)に往復させてみる。伝えなきゃいけないのは社会とのつながりを築かねばならないのは、原発の被災地だけか？そうではない。障害をかかえるなかまを取り巻く現状を考慮すれば、社会に伝えつながりを広げる実践は私たちとて同じく必要である。それを、商品に込めて商品を通じて実現できているか？

サンサンクラブの「みらくる和紙」は、コンセプトとしてはしっかり持っているが、課題は施設の外の社会とのつながりが弱いことである。例えば今後、できたら面白いと考えていることの一つに「保育所における卒園証書」を共同で作る取り組みである。小さな頃から多様な人と関わり、人生の節目の証書を自らの手でしかも障害を抱える仲間と共同で作れると社会的に価値のある仕事であると感じる。製品を届けて終わりという一方通行ではなく、届けた後にも交流がうまれたら、もしくは製品を共同でつくるなどつながりを促すアプローチも今後取り組んでいけたらいいと考えている。

課題としては、社会のニーズをしっかりとリサーチすることである。本当に必要で、買っただけのお客様に納得と満足と貢献がないとリピートにはつながらない。また、その社会ニーズとこちらの力量がマッチングしないと加重がかかりすぎ作業がいびつになってしまう。現在は、名刺・(年賀)はがきが主であるが、一筆箋や手紙・カレンダーなどに取り組みたいと考えている。そこで重要なのが、サンサンクラブだからこその味わい・オリジナルをいかにして引き出しうるかである。ここでは、ART のもつ可能性を追求してみたい。現在、月1回であるが専門家とともに美術教室を開いている。

また、“福祉の製品“という前置きなしに、純粋にその製品としてお客様に見ていただいて、良いと感じていただいて買って頂く品質の追求も必要に感じる。「用」に耐えうる品質であるかが問われる。例えば、みらくる和紙の名刺なら、規格通りか・厚みの均一・紙質・印刷明度・紙の強度である。ここが、クリアした上で、オリジナルが加味されるなら、“福祉の製品“という前置きの必要ない、“魅力ある製品“なのかもしれない。

共同連・東北ブロック、結成しました

共同連・東北ブロック 事務局 飯嶋 茂

2010年の共同連宮城大会から4年、大震災から3年、共同連東北ブロックの結成などいつになることやらと思っておりましたが、11月9日、共同連・東北ブロックを結成することになりました。

当日は、12団体約30名が参加しました。東北といっても、宮城・山形の2県からの参加ですが。宮城からは、2010年の共同連宮城大会に参加してくれた事業所を中心に、新しく参加してくれたところも含め8事業所と個人1名、山形からは、月山福祉会の呼びかけに応じてくれた4事業所が参加しました。

当初は、まずは交流をかねて顔合わせからという考えでしたので、各事業所の事業紹介から始めました。

いきなり共同連とは何かという固い話で始めるより、互いの顔も見え、リラックスできたのではないかと思います。お昼には、事業の情報交換等も行っていました。

午後からは堀代表のあいさつ、斉藤事務局長の共同連入門と続きました。パワーポイントを使った説明は、結構わかりやすいものでした。また、急遽、参加してくれた共生シンフォニーの中崎さんからも一言いただきました。

その後の質疑では、実際に実践しているところがないと理念だけではいけないのではないかとといった意見もでしたが、一方で、共生型事業所の取り組みの報告も出されました。

その中で、当初予定の交流会だけではなく、まずはとにかく共同連東北ブロックとして活動していこうということが確認されました。代表には、作業所月山の石川さんが選ばれました。事務局長にはコッペの飯嶋、事務局としてNPO法人桑の木角田さんとはらから福祉会の小石沢さんが選ばれました。なお、個人参加の松本君が広報部長に就任しました。

当面の活動としては、来年の4月に共同連のマラソントークと合わせ、鶴岡へ宮城組が参加することを予定しています。また、今回は参加していませんが、新潟のみなさんとも一緒に活動していければと思います。

共同連不毛の地、東北にもブロックができたことは、長年共同連に関わってきたものとしては感慨深いものもあります。

とはいえ冒頭にも述べたように東北6県のうちまだ2県のみの参加。これをひとつの足掛かりとして、機会を作りながら共同連の思いを伝えていきたいと思いません。